



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

先立つ人は 命がけで我らを導く

浄土の光に包まれ 目覚めの道が始まる

ある夜、駅前のホテルでの懇親会からの帰途、携帯電話が振動しました。坊守からの「訃報連絡」です。「某葬儀会館に立ち寄るように」という連絡なので、偶然にも自宅への帰り道にその会館が立地していたため、ご遺族の待つ会館に直行しました。

この度亡くなられた方は、若い頃の労災事故が原因となり、たくさんの病気を抱えて入退院を繰り返して、生涯独自のまま、八十歳を一期としてこの世の命を閉じられたとのことでした。

喪主は義理の妹、つまり故人の弟のお嫁さんでした。だから、「簡素化(直葬等)」されても不思議ではないかも・・・と一瞬想像を巡らせました。

しかし、ご遺族は「亡くなった主人も主人の母もお寺さんにお世話になりました。だから、義兄さんもきちんとお葬式をして仏様のところへお見送りしたい・・・」と言われます。私はそのお心配りに敬意を表し、一瞬脳裏をよぎった「直葬云々」の言葉を封印、

ご遺族の(大事にお見送りをしたいという)心映えに感心し、心を込めてお

勤めさせて頂くと思いました。

「若い頃の事故の後遺症のために、一生つらい病気を背負いながら、家族愛にも恵まれずに、よくここまで耐え忍んでこられたことよ。この人の亡きお母さんが愛情を注いで支えられたに違いない」と想像を巡らせました。

その時、「前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪へ、連続無窮にして、願はくは休止せざらしめんと欲す」という道徳師の有名な宗祖引用のお言葉(教行信証・後序)を思い出していました。

亡き母上が不遇の息子さんを導き、支えられたに違いない。八十年の苦難の人生を終えてお浄土に仏として生まれ変わったこのお方の姿は後に残ったこの遺族の方々を導き、私もそのお導きを蒙っている。そう思うと、有難い「いのちのバトンタッチ」、今現在説法の具体的な法座であると思われたのです。

今年の仏教書の中のベストセラ―とも言える『それからの納棺夫日記』(法蔵館)の中で、著者・青木新門さ



☆行事ご案内☆

◆門信徒会10月の例会

10月19日(日)夜7時半

- ① 親鸞聖人750回大遠忌法要勤修計画について。
- ② 地方創生におけるお寺の役割を考える。

◇キッズサンガ 10月4日(土)午後4時お経ゲーム、鐘つきは毎夕5時年中無休、ご褒美のガムあり、お友達と一緒に!

◇三重組コーラス10/20午後1時半西勝寺様

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年2か月で15万2千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

※『第4回善正寺門徒展』10月1日より31日まで

百五銀行阿倉川支店ロビーにて1か月間。絵、書、写真、陶芸、手芸など何でもOK。9月末日3時まで作品受付。門徒以外の方のご応募も大歓迎。終了後は11月2日、3日の報恩講で本堂南側に展示します。皆様の力作お寄せください。

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!ご法要まで、後1年8か月に迫りました。稚児募集開始!

※[予告]『報恩講』11月2日午後1時半、夜7時 琴演奏3日午前10時、午後1時三全仏婦、講師大島信隆先生2日午前11時より12時「お非時」手作り昼食ぜひお召し上がり下さい。

んは、「死後何か月か経つ一人暮らしの老人の納棺の際、布団をはいだら無数のウジが肋骨の中でうごめいていた。遺体をお棺にもかくも納め、ウジの掃除をしたとき必死に逃げるウジを見て、『ウジもいのちなのだ。そう思うとウジたちが光って見えた』(趣意)と言われ、それが親鸞聖人の教えに導かれる契機になりました。「逃げ回るウジたちに光を見たのは、お浄土の光の照り返しなのだ」と気づいたのでした。



午後のひと時、境内は子供の居場所です!



浄土からの光に包まれているという気づきが闇に惑う我らを覚醒させるのですね。

坊守スケッチ

生き様を残したい!



50年前の東京オリンピックピックで、重量挙げで金メダルを獲得した三宅義信選手を覚えていますか?彼は現在74歳。4年前に胃癌を患い手術した。このまま癌の再発を恐れながら年老いたくないと考えた。それならば『昔取った杵柄』!一念発起して重量挙げに再挑戦することに決意した。彼はとことんやりぬく性格。全て自己流で練習を再開した。しかし年齢からくる膝の痛みやプレッシャー、そして癌再発の不安と闘いながら練習を重ねた。本当に好きな重量挙げの為に、残されたいのちを捧げた。

ついに全日本マスターズ選手権75歳以上の部に出場した。体重56キログラムの彼が、43キロのバーベルを挙げた。結果は惜しくも第2位。しかし彼には悔いはなかった。50年前の金メダリストというプライドはあったが、病と闘いながら、老いてなお大好きなことに再挑戦して、輝ける自分を再確認できたことが何より嬉しかった。

「私は子供や孫に、人生最後の日まで、自分らしく輝いて生きる『生き様』を残したい!」と誇らしげに語る。

私達凡人には、三宅選手のような栄光の歴史はない。好きなことに再挑戦と言われても、自分が本当に好きなこととは何なのか、心に問う暇さえもない。その場しのぎの、毎日の生活に追われ

るのが現状。年老いて思わぬ病気に罹り、このまま死んでいくのだろうか? 「オバアチャンはどんな人だった?」と問われれば、「年老いてこんな苦じやなかった。何故私だけがこんな目に遭うのと、いつも愚痴を言っていた」と、孫から言われられないようにしたい。

一般的に年寄りの子供や孫に残してやりたいと思うものは、お金や土地などの財産。来年度から相続税が上がるので生前贈与が盛んだと聞く。三宅選手のような『生き様を残したい』と考える人は少ない。それどころか、自分の老後は、子供には一切迷惑をかけたくないと考える人が多い。子供の方も「煩わしいものは一切残さないで。財産さえ残してくれればいい」とちやっかかりしたもの。子供達は親が老いていく姿、病気で苦しんでいる姿を身近に見ていないので、老後のお手本がない。将来困っても誰も助けに来てくれない。家族はバラバラ、親戚は疎遠、周囲と孤立し、ますます寂しい人生を送る時代になるのではないか?

20年来様々な病と闘いながらも皆の幸せを願って、力の限り活動を続ける女性がいる。残された人生、自分だけの為にお金と時間を使う年寄りが多いが、私はこういう女性に頭が下がる。限りあるいのち、どんな老後を迎えようとも、自分らしく輝いて生き

る『生き様』を、孫に残したいものだ、親の生き様には税金はかからない。

☆寄稿

☆四日市市 釈 俊悦

☆目標は 後二年余りか 米寿まで

姫路市 釈 貞芳

☆母死すと 聞いた瞬間 吾胸に

一緒に暮らす四十二年

☆念仏は 皆の思いが叶うよう

許し合って 暮らすことかな

☆風呂入り 汚れ落として 身は軽

く お念仏して 心もさっぱり

Eさんのいいもの紹介

☆生き物は 群れを作って 生きて

いる(H15 藤大慶師法話より)

※植物は群落をなし、毛虫も群れを作

って生きている。何故人間は家族や地

域を壊し、個人主義へ向かうのか?人

間も一人では生きられない(坊守)

何でも相談コーナー

(問)年末に祖父の二十三回忌、年明

けに祖母の十七回忌が当たります。法

事を併修してもいいですか?

(答)親戚に度々集まってもらうのが

気の毒だからというのが理由です。勤

めないよりはマシですが、少人数でも

丁寧に勤めるに越したことはありません

せん。法事は故人の為に勤めるのでは

なく、私が仏法に遇わせて頂く日。先

祖のご恩を偲び『絆』を再確認する日

です。

ホットニュース

☆新納骨堂の個別納骨壇を24基設置。後継者のいない方、お墓、お仏壇、納骨等で困っている方は、何でも自由にご相談下さい。見学もOKです。

☆境内地の共同トイレをリニューアル。中央に仕切り壁をつけ、男女の入り口は別々。女子用は新しく二つの洋式トイレに変更。膝の悪い人の為です。

【平成26年度後半善正寺主な行事】

※11/2(日)午後と夜・3(月)

午前と午後(仏婦主催)『報恩講』(大

畠信隆師・大阪岸和田市)

※11/23午前秋勸進

※12/6(土)夜『お内仏報恩講』

☆善正寺のホームページ。三重 善正

寺で検索可。毎日更新の『住職と坊守

のつれづれ日記』が好評。開設丸6年2

か月で15万2千訪問。悩み相談、コ

メント大歓迎。

お悔やみ申し上げます

★清水荘一機(8月27日亡・80歳)

合掌

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」二五〇号をお届けします。◇不順な天候が続く、秋の取入れに難渋されたのではないでしょうか?◇天高く馬肥ゆる秋。「見るべきテレビ番組が少ない」という声を聞く。読書の秋、灯火親しむ秋。良書は視野を広げ、深める。心静かに写経するもよし。読書も写経も広義の聴聞に通じます。大切な人生、心温まる時間を多く持ちたいと思うこと切実です。合掌

「秋深し隣は何もする人ぞ」これは松尾芭蕉が最後の病床で詠んだ句です。1694年9月28日弟子が主催した俳句会に体調悪く欠席。お詫びも兼ねてこの句を送りました。「病床で静かにして」と、自然と隣の人の生活音が聞こえる。隣の人（弟子達は）どうしているか」と気遣う意味です。その二週間後に「旅に病んで夢は枯野を駆け巡る」という句を残して51歳で七くなりました。ところで入退院を繰り返した人が最近の入院事情を話してくれました。「近頃は相部屋でもカテゴリーは閉じたまま、同室の人と言葉を全く交りません。プライベートは尊重です。以前は個室は寂しいから快くなれば相部屋に移りました。退屈な入院生活も気分が紛れ友達ができました。今は入院中も退院時も一切挨拶無し。本当に寂しい時代です」。病んでまで個人主義が好まれる人の過もりからますます遠ざかります。これが現代版幸せでしょうか？ 相田みつをさんは「幸せは自分の心が決める」と言いました。長年闘病生活を送っている人が「いろいろな病気を経験したからこそ見えてきたものがある。沢山の人のおかげに気づきました」と感謝の言葉を言われました。「あなたの苦勞はあなた一人に背負わせない、一緒に背負う人が必ずいる。あなたは一人じゃない。大丈夫、大丈夫！ 今が一番幸運と、励まして下さる阿弥陀様を信じられるからこそ、これからも安心して生きられるのだと思います。十月日より一ヶ月間、百五銀行阿倉川支店で第四回「善正寺展」が開催されます。比呂様の力作ぜひ一度ご覧下さい。作品は報恩講期間中も本堂に展示されます。合掌

平成二十六年十月 善正寺坊守拝